

バリアフリー体験施設 施設利用案内

～ 楽しく・安全に利用していただくために ～

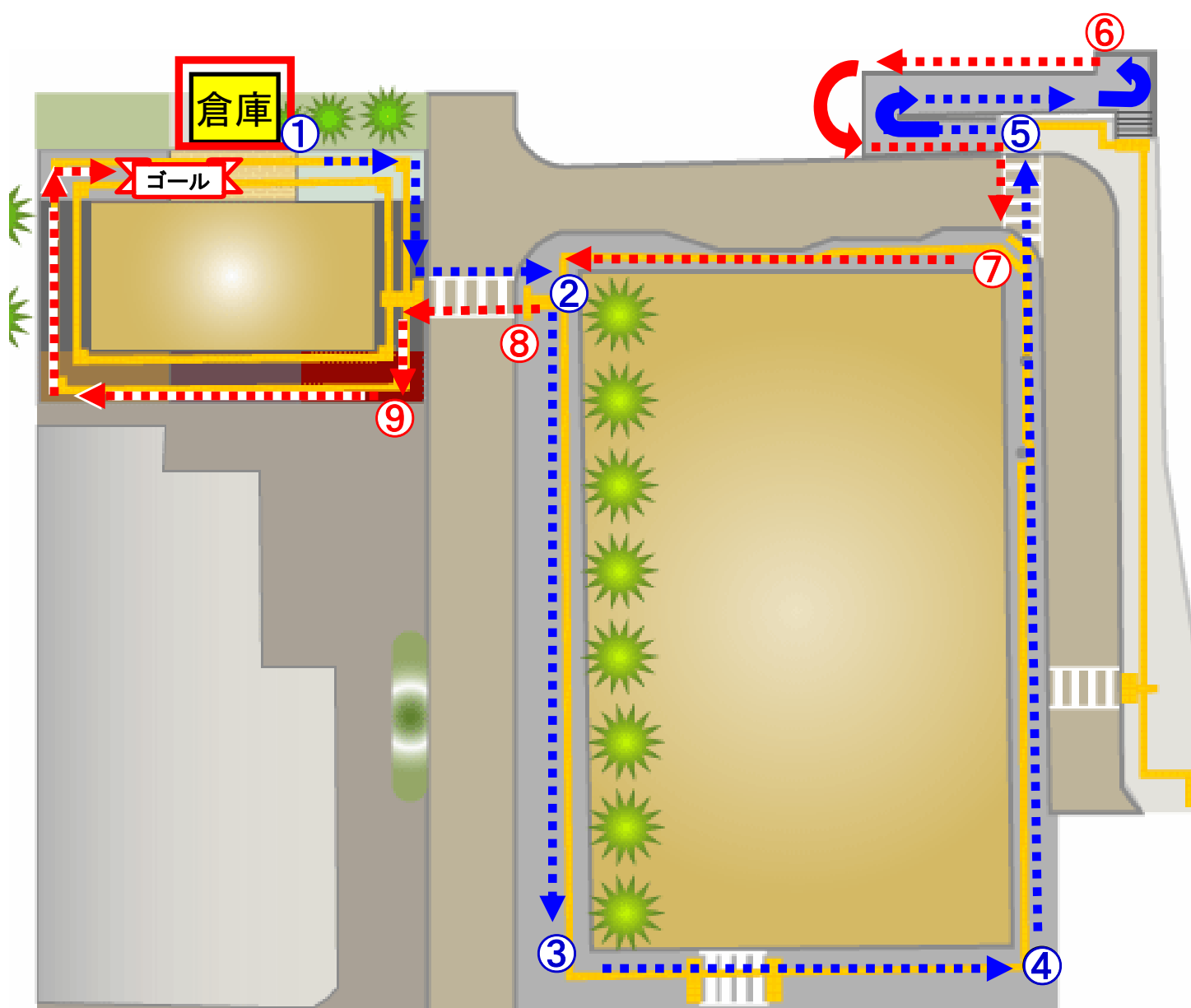
- ・ 車いす体験説明資料 . . . p 1
- ・ 白杖体験説明資料 . . . p 7
- ・ 高齢者体験説明資料 . . . p 9
- ・ 施設内 危険箇所例 . . . p13

平成22年 4月

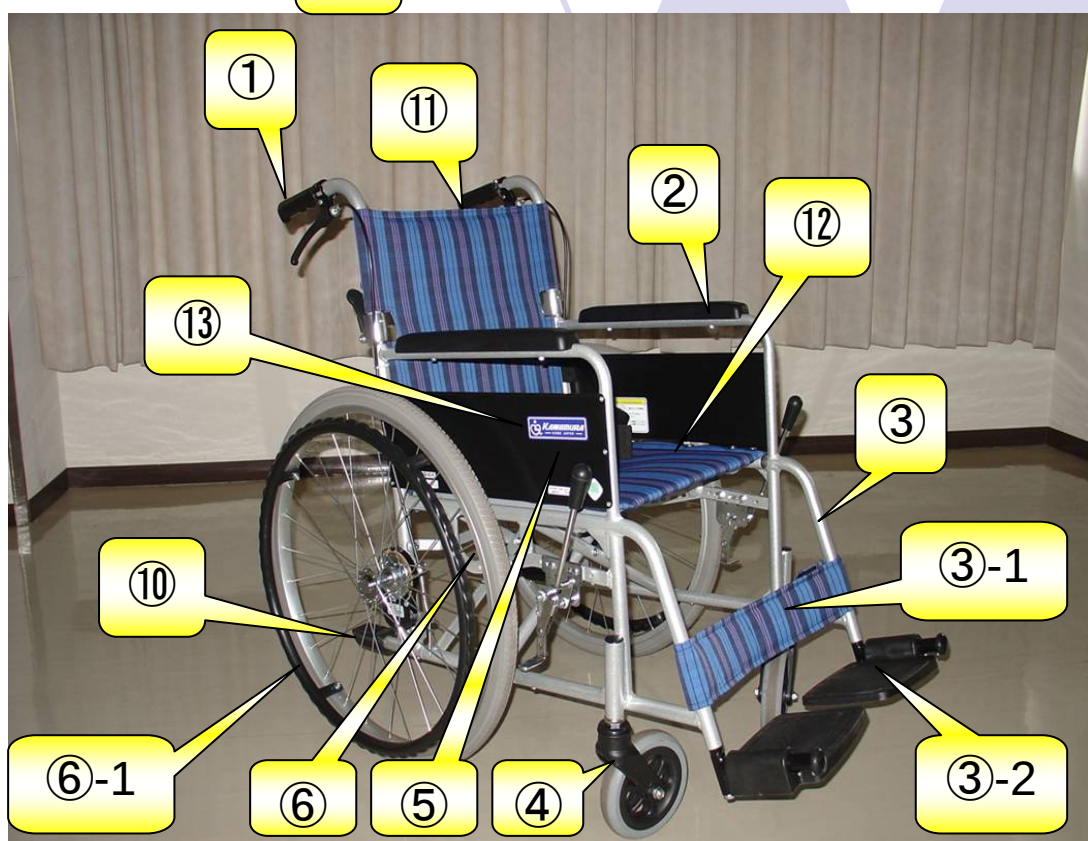
九州技術事務所

車いす体験ルート

- 標準的な車いす体験ルートです。
(倉庫前を出発し、倉庫へ戻るルートとなっています。)
- 1周の標準的所要時間は、約30分程度です。



車いす各部名称



① 押手(ハンドグリップ)	介助者が車いすを移動させる際に握る部分
② 肘掛け(アームサポート)	利用者が肘を乗せる場所
③ 脚部(フットレグサポート)	足をささえる装置
③-1 足ベルト(レッグサポート)	足が後ろに落ちないように支えます
③-2 ステップ板(フットサポート)	足を乗せる板
④ 前輪(キャスター)	自在に方向転換できる小車輪
⑤ 駐輪ブレーキ	車いすを駐車する時に使用します
⑥ 後車輪	駆動輪
⑥-1 ハンドリム	利用者が自走する時に使用
⑦ 背折れ金具	車いすをたたむ際更にコンパクトにします
⑧ 安全ベルト	体がずり落ちないように腰を安定させるベルト
⑨ 介助ブレーキレバー	介助者がブレーキをかけるときに使用
⑩ ティッピングレバー	段差を乗り越える際、ここを踏んで前輪を浮かせます
⑪ 背シート(バックサポート)	背中が寄りかかる場所
⑫ 座シート	座る場所
⑬ 側板(サイドボード)	衣類等が車輪に巻き込むことを防止

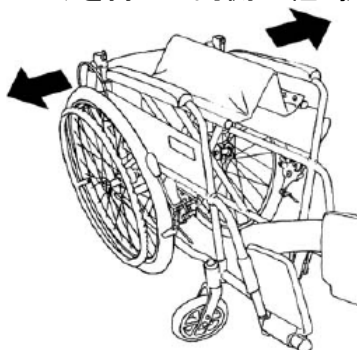
車いす操作説明 ①

安全に関するお願い !!

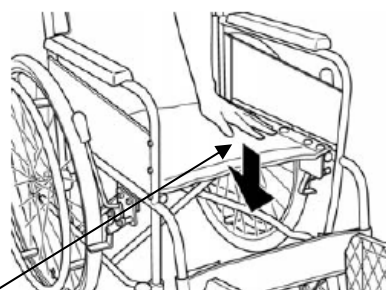
車いす・視覚障害(白杖使用)体験を楽しく安全に利用できるように以下の使用方法及び注意事項を必ず守ってください。

車いすの拡げ方

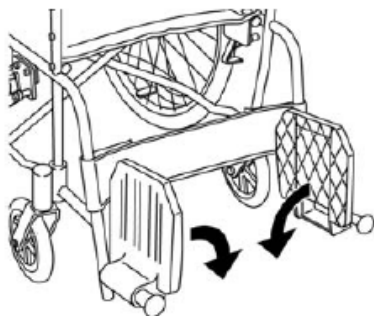
① 車いすの後方に立ち、左右の肘掛け(アームサポート)を持って両側に軽く拡げます。



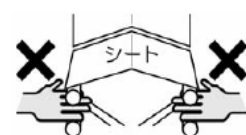
② 片方のフレームを持ち上げて車輪を少し地面から浮かせ、座面端のパイプ部分を手で押し下げます。



③ ステップ板(フットサポート)を内側にたおします。

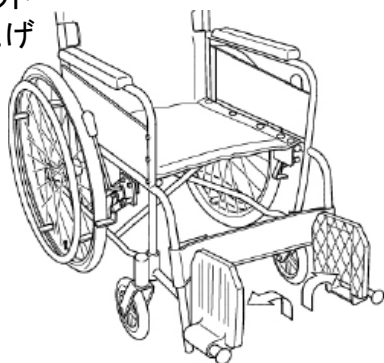


座パイプの横や下に手や
注意 指を置かないでください。

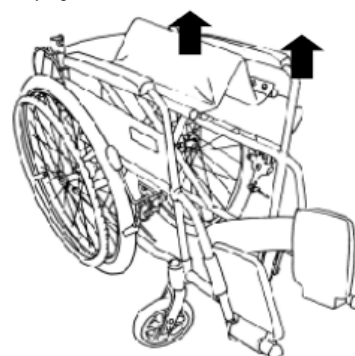


車いすのたたみ方

① ステップ板(フットサポート)を跳ね上げます。



② シートを折りたたみます。
座シートの前方と後方の中央部を同時に持ち上げます。



車いす操作説明 ②

車いすの乗り方

- ① ブレーキがロック状態か確認してください。
- ② フットプレートを両側あげてください。
- ③ 両手でアームレストを持ち、ゆっくり座ってください。
- ④ フットプレートに足を乗せてください。

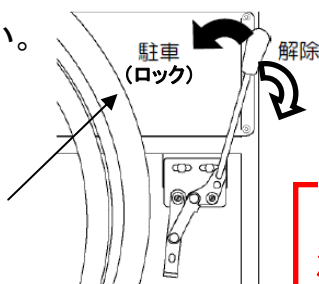


注意

車いすに乗り降りする時や、一時停止するときは、必ずブレーキをロック状態にしてください。

車いすの降り方

- ① ブレーキを両側ロックしてください。
- ② フットプレートから足をおろしてください。
- ③ 両手でアームレストを持ち、ゆっくり立ってください。



注意

車いすに乗り降りする時は、決してステップ板の上に足をのせないでください。



車いすの動かし方

① 前進

両手でハンドリムを握り、前に回していくと前進できます。
ゆっくりと同じテンポで回すことで、スムーズに前進します。

② 後退

両手でハンドリムを握り、後ろに回していくと後退できます。

③ 方向転換

方向転換するときは、曲がりたい方向のハンドリムを後ろ向きに回し、反対側のハンドリムを前に回すと、狭い場所でもスムーズに方向転換できます。

④ 坂道を上るとき

上りの時は、後方に倒れやすいため、身体を前傾させて両手で同時にしっかりと回してください。



注意

坂の途中では、絶対に手を離さないでください。



注意

タイヤをつかむと指をケガする恐れあり!!



⑤ 坂道を下るとき

下りの時は、身体を背もたれに寄りかけて体重を後ろに掛けながら、ハンドリムを進む分だけ前に回して進んでください。



注意

- ・手を離して勢いで前に進もうとしないでください。
- ・ハンドリムを軽くつかみ、手のひらで滑らせ減速させないで下さい。(やけどの原因となります。)



車いす操作説明 ③

介護者の注意点

[段差のある場所]



① 段差を上るとき

ティップングレバーを足で押さえ、握りを後ろ下方に引いてキャスターを持ち上げ、前に押し進めて下さい。

② 段差を下るとき

1. 車いすは段差に対して背中を向け、後輪からゆっくりとおろす。
2. キャスターをあげそのまま後ろにさがります。
3. フットレストや車いすの利用者のつま先が、段差にあたらないように注意してキャスターを地面におろす。

[坂道]

<上り坂>



<下り坂>



③ 坂道を上るとき

後ろから少し身体を前傾して、一步一步押し戻されないように、押し進めます。

④ 坂道を下るとき

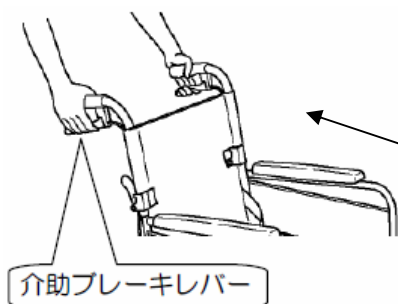
急な下り坂では後ろ向きで、一步一步ゆっくりとくだります。



注意

坂の途中で、急に手をはなさないでください。

介助ブレーキ



⑤ 介助ブレーキ

ブレーキレバーを握ると制動ブレーキがかかり、離すと解除します。



注意

ブレーキレバーは介助者が必ず両方同時に掛けてください。

車いす操作説明 ④

その他の安全に関する注意点 !!

① バリアフリー体験施設は、実際の道路にあるさまざまなバリアーをわざと配置している関係上、危険な箇所が多数あります。そのことを念頭に置いて安全に利用して下さい。

② バリアフリー体験施設中には、実際に車の通路となっている箇所があります。通行車両には十分気を付けてください。

③ 歩道は車道に向かって傾斜が付いています。歩道際を走行する場合、車道側へながされますので、転落等に気をつけてください。

④ 段差に向かって勢いを付けて車いすを走行させると転倒の原因となります。

⑤ 車いすのポケットや押し手に重い物を乗せるとバランスを崩し危険です。

⑥ 座シート以外の部分に腰掛けないでください。

⑦ 複数の人数で乗らないでください。

⑧ 下り坂等で車いすのスピードをあげると大変危険です。ご注意下さい。

⑨ 車いすでの走行中は、身体を乗り出さないでください

⑩ 車いすに座ったまま強い前傾姿勢をとらないでください。

⑪ 雨天・強風・落雷の恐れがあるとき等は使用を中止してください。

⑫ 発進時や段差を乗り越えるときは、キャスターのタイヤがまっすぐになっていることを確認してから走行してください。



⑬ タイヤを持って車輪を操作しないでください。
(操作は、ハンドリムを握ってください)

⑭ 走行する際は、片手で操作しないでください。

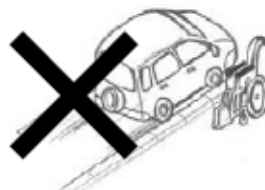
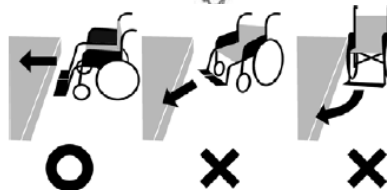
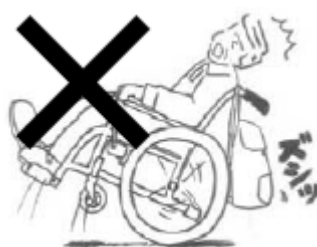
⑮ 以下のような所に車いす等を放置しないでください。

- ・ 車道に近いところ
- ・ 坂道や平坦でないところ

⑯ 体調が優れないときは、利用を中止をしてください。

⑰ 使用目的外には、使わないでください。

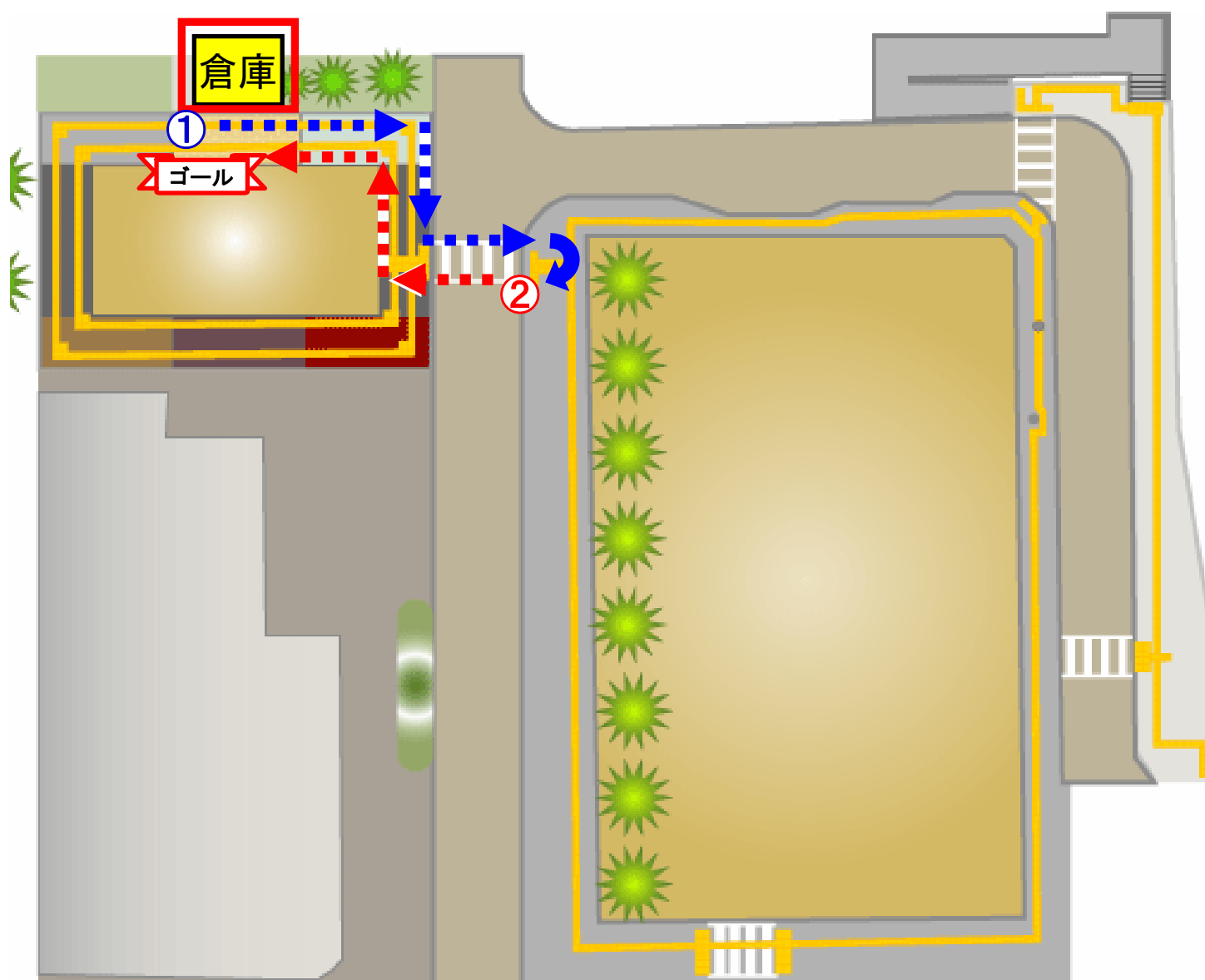
⑱ 酒気帯びでの利用はしないでください。



白杖体験ルート

- ・ 白杖体験ルートは、アイマスクを着用し、白杖を使用して、**視覚障害者用誘導ブロック**及び**縁石段差**をたよりに、歩行体験をして頂くものです。
- ・ 1周の標準的所要時間は、約20分程度です。
(倉庫前を出発し、倉庫へ戻るルートとなっています。)

※危険な箇所もございますので、必ず2人1組(体験者と補助者)で行動してください。



白杖体験時のサポート(援助)のしかた



注意

アイマスクをしての白杖体験は大変危険です。(必ず2人1組で行ってください。)
サポートの方は、白杖体験者から目を離さず、安全にサポートしてください。

<介助をする人>

- ①白杖を持つ手と反対側の半歩前に立ちます。
- ②相手のひじから手首にかけて自分の腕を軽く組みあわせます。(図-1)
- ③歩く速さは相手に合わせ、立ち止まるときや、曲がるときはひと声かけてください。
- ④前方に段差などがある場合には、「〇〇メートルほど前に、〇〇があります。」と注意を促してください。
- ⑤介助する人は、介助で常に両手が使えるようにしておいてください。



注意

杖を振り回すと大変危険です。 子供がわるふざけをしないよう注意してください。
(杖が根本からすっぽ抜けることもありえます。)

階段を利用する場合の注意点

<階段の上り下り>

- ①階段に直角に近づき直前でとまり、「階段です。上ります(下ります)。｣と声をかけます。
- ②上る場合は、援助の者が先に一段上って相手がその段を上りかけたときに2段目を上るようにし、常に援助の者が一段先を上っていくようにします。(下りる場合も同様です。)

図-1



図-2



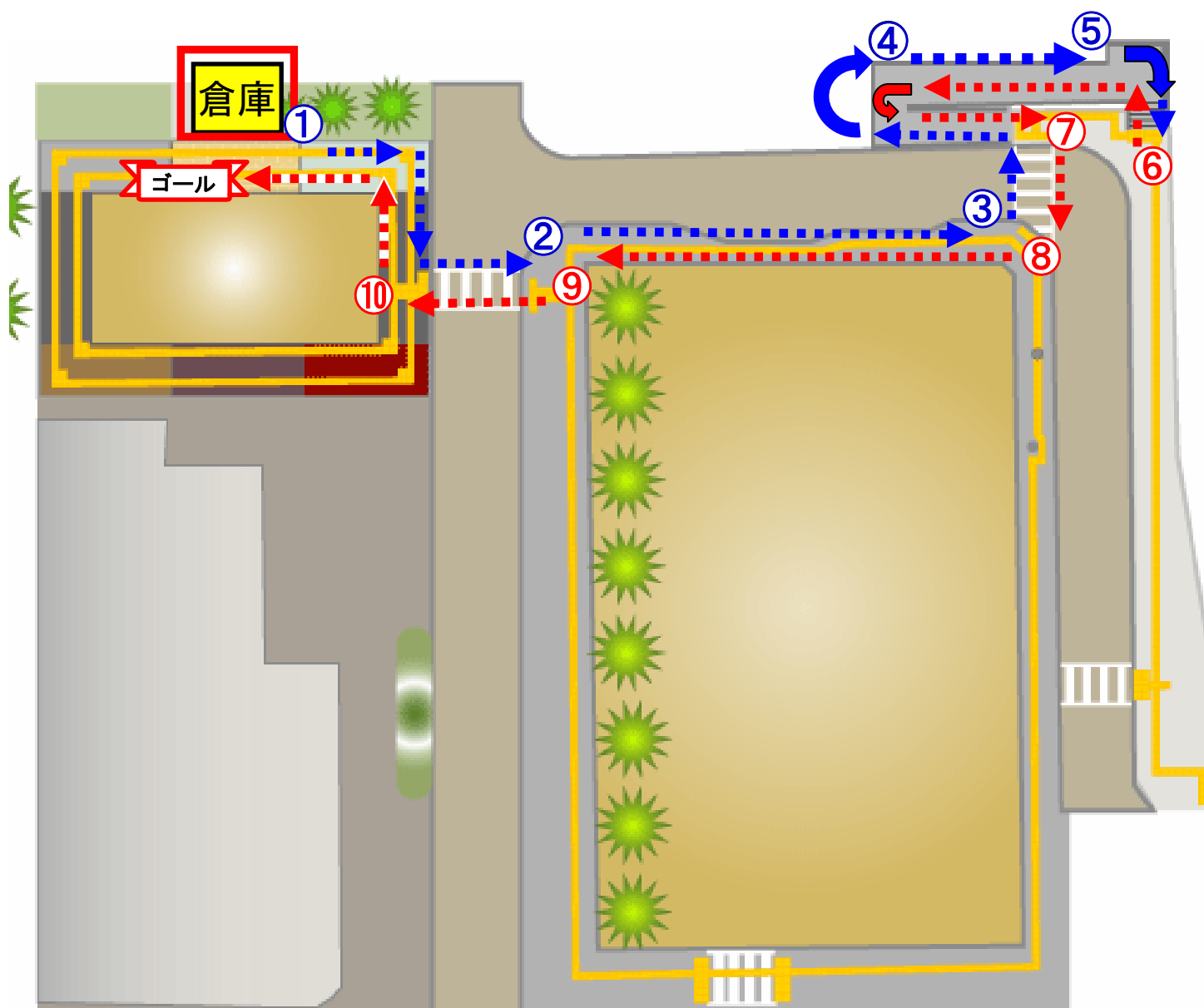
注意

サポートの方が、白杖体験者の背中を押したり、腕を強く引張ったりすると危険です。

高齢者体験ルート

- ・ 高齢者体験ルートは、ゴーグル（視力が低下した状態を体験するため）、耳栓、おもり、サポーター等を装着し、高齢者の方の歩行時の疑似体験をして頂くものです。
- ・ 1周の標準的所要時間は、約20分程度です。
（倉庫前を出発し、倉庫へ戻るルートとなっています。）

※危険な箇所もございますので、必ず2人1組（体験者と補助者）で行動してください。



高齢者体験キットについて

運動能力を高齢者のようにする高齢者擬似体験グッズのキットです。
特殊な「めがね」、「耳栓」、手や足につける「おもり入りのチョッキ」、「おもり」、「サポーター」、「手袋」などから成ります。

視覚や聴覚を通して得られる外部からの情報が如何に制限されるか、動きがどのように制限されるか実感できます。



高齢者体験キット装着方法

各種手袋・サポーター の装着方法

※実習目的に応じて装着して下さい。



●サポーターの装着は、指の第一関節に合わせてください。

手首・足首用おもりの 装着方法



●足首サポーターを装着後、その上に足首用おもりを巻きつけ、しめます。



●手首用おもりを手首に巻きつけ、しめます。

ステッキの 取扱方法



万能チョッキ・砂袋の装着方法

●チョッキ前面のポケットに砂袋を入れます。

足首の装着方法



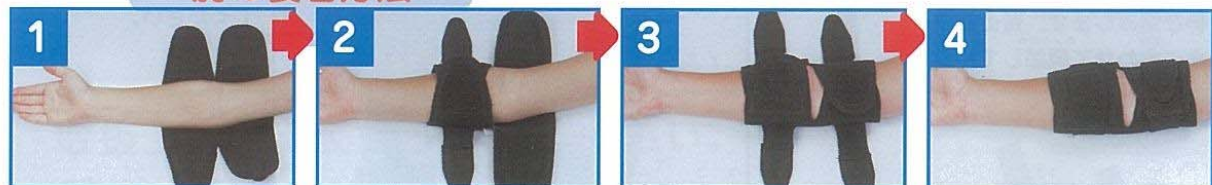
足を内側のベルクロに装着します。

外側をベルクロでしっかり固定します。

ひもをしめ上げて、固定する力を調節します。

マルチサポーター (足首・肘・膝用)

肘の装着方法



マークが上腕にくるようにひじの中心に合わせて。

下部のラップを止めます。

上部のラップを止めます。

上下左右4本のストラップを、固定する力を調節しながら止めます。

膝の装着方法



ホースシューパットを、ひざ小そうをおおうように当て、両サイドのヒンジの動きとひざの関節の動きが一致する位置を決め、上部分のストラップを止めます。

下部分のストラップをふくらはぎに巻くように、しっかり止めます。

上下のストラップを止めたら、ストラップとヒンジ部分を包みこむようにそれぞれ上下のベルクロを装着します。

ストラップ、ベルクロが装着できたら、ヒンジの動き具合と固定の強さを確かめてください。

高齢者体験及び介助方法

高齢者介助状況①



①転倒等の恐れがありますので、肘と膝の**サポーター等**は、前ページの装着方法に従い**確実に装着**ください。

高齢者介助状況②



②介助の方は、**側方に立ち杖**をもっていない側の肘のあたりに手を添え誘導します。

階段下り状況



③階段及びスロープ

下りは、装着者の**前方**で誘導

上りは、装着者の**後方**で誘導

※ぐらつき等の際には、すぐに支えてください。

階段上り状況



注意

高齢者体験中は、いつもの様に動けません。
ぐらつき等の際は、サポートの方はすぐに支えてください。

バリアフリー体験施設 危険箇所例 ①

注意！！

車が通りますので、左右確認をして通過してください。



注意！！

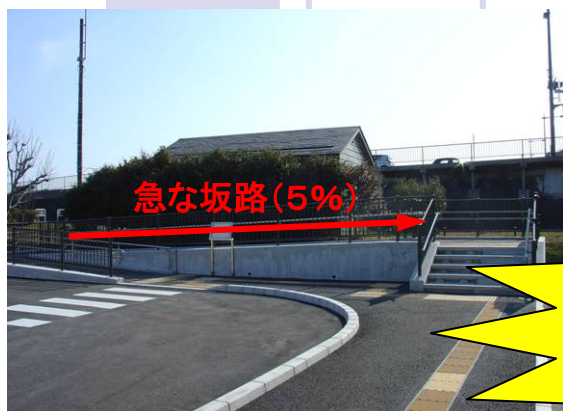
車イスで、段差を登る際は、後ろに体重をかけると危険です。前傾でゆっくりとおすすみください。



注意！！

車いすで走行する際は、車道側に流されやすいのでご注意ください。

バリアフリー体験施設 危険箇所例 ②



スロープの勾配は急です。
(縦断勾配5%)

注意！！

車いすで、坂を登る際は前傾姿勢で、ハンドリムから、絶対に手を離さないでください。補助者の方はハンドルを握り、目を離さないようにしてください。



注意！！

下りでハンドリムを軽く握り、手のひらでハンドリムを滑らせると、やけどのおそれがあります。

注意！！

こんな障害物もあります。



歩道の真ん中に
電柱が！！



ガードレールの
そでに注意！！